



<p>団体名</p>	<p>一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>コミュニティベースのCAP推進事業～「安心・自信・自由」の地域づくり</p>				
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■活動風景</p>				
<p>●望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>「人権」は、一人ひとりの「生きる力」であり、「安心して、自信を持って、自由に」生きる権利として自分のものとして理解される必要があります。とりわけ、社会的に力を奪われている子どもたちが、「生きる力」を育てていくことは、おとなに子どもの声を聴く力が必要です。一方で、おとなもまた「安心・自信・自由」の権利に基づいて暮らし、対等な立場で対話を進めることができ、住民が気軽に声を掛け合える地域社会でこそ、子どものエンパワメントを育む環境作りが可能になります。学校・家庭・地域と一緒に子どもの「安心・自信・自由」を保障することを目指して協力するのが望ましい社会状況です。</p>		<p>「こどもワークショップの感想」</p>				
<p>●団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>2020年4月から協会は、豊中市の委託事業として①人権情報啓発事業、②相談事業、③子どもの居場所・学習支援事業の3つの柱で事業を進めています。本事業など自主事業も含めて、協会の諸事業を進め、「安心・自信・自由」を地域社会のビジョンとして浸透し、おとなも子どももエンパワーして地域を変えていくことが協会の社会的役割です。とても複雑ですぐに答えの出ない課題について、何が地域の課題なのか、それを解決するには何ができるのか、などを共に考え行動しようとする人々の輪を作ることが、とりもなおさず、協会の掲げる「人権文化」を根付かせていくことだと考えています。</p>		<p>低学年（3年生8才）の感想</p>				
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>●望ましい人的資源：ビジョンとミッションを実現していくためには①資金調達力、マネジメントスキル②事業企画力③諸団体機関との調整能力④市民、子どもとのコミュニケーション能力⑤発信力を持つ職員の育成、協力者のネットワークが必要です。 ●望ましい物的資源：①協会事業をきっかけに集まる市民の居場所、活動スペース②子どもの声を安心して聴けるスペース③広報活動に必要なスペース、機材 ●望ましい活動資金：①CAPを届ける事業を継続できる事業資金、②多様な市民をネットワークし、事業を展開する資金 ●望ましい情報：①子どもを取り巻く問題について最先端の情報にアクセスし、必要なスキルを獲得する機会②ビジョンを共有する地域づくりのための考え方と具体的方法</p>						
<p>■活動報告く</p>			<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>				
<p>●CAPの実施 CAPプログラムを通して、「安心・自信・自由」の権利があることを子どもにも大人にも届けることができた。 ●映像制作講座の実施 CAPプログラムに参加した子どもを対象に映像制作講座を実施。「おとなに言いたいこと」をテーマに、5つのグループにわかれて「戦争反対」「いじめだめ」「制限やめて」など動画を撮影。互いに協力し合うことで、創造性や協調性を育む場となった。 ●おとなカフェの実施 子どもに関わる大人を中心に子どものエンパワメントについて学ぶ機会を提供した。</p>			<p>●CAPおとなワークショップの実施 ①開催 おとなワーク7回実施 111人参加 ②目標アウトカム「CAPの重要性と子どもの気持ちを聞く具体的なスキルを学ぶ」：参加者の8割以上が「子どもにCAPは必要」と回答 ●CAPこどもワークショップの実施 ①開催 こどもワーク9回実施 317人 ②目標アウトカム「安心して自信を持って自由に生きる権利があることを学ぶ」：参加者の8割以上が「楽しかった」と回答 ●映像制作講座 ①開催 1回の実施 ②目標アウトカム「CAPで学んだことをベースに映像で表現できることを学ぶ。自分たちには映像作品を協力して作る力があることに気づく」：参加者の9割以上が次回も参加したいと回答 ●活動基盤の強化 ボランティア（地域住民）が積極的におとなカフェの宣伝を担ってくれた</p>		<p>「映像制作講座」 撮影した動画を編集する子どもたち</p>		
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>		
<p>●今回、「コミュニティベースのCAP推進事業—「安心・自信・自由」の地域づくり」において、当団体のような地域に拠点を持つ団体とCAP実践団体と協働でCAPプログラムを児童養護施設、こども園、小学校、中学校に届けてきた。その取り組みを通して、学校や園とプログラム実施者（CAPグループ）との間で、学校園のニーズの把握、事前説明、広報、当日の運営、資料準備、振り返り、アンケートの整理と課題の抽出などの作業を経験した。その活動を通して、当団体が地域でCAPプログラムを進めるためのコーディネーターとしてのノウハウを蓄積できた。児童養護施設、こども園、小学校、中学校の教職員とコミュニケーションをもつことで、それぞれの学校園がいま、取り組む課題についても学び理解する機会になっている。 ●CAPの振り返りを行うにあたってテンプレートを制作した。 ●おとなカフェ（オニギリ大会）の趣旨に賛同した地域ボランティアが、連日、公園で遊ぶ子どもたちに直接チラシを配ってくれたり、友人への声かけや、孫が通園するこども園の保護者に参加を呼びかけてくれた結果、20人近い大人が当日ボランティアで参加してくれた。翼を含む子どもたちも30人以上参加してくれた。協会が拠点となり事業を実施したことで、市民一人ひとりの「地域を巻き込むチカラ」の大きさを知ることができた。 ●CAPプログラムを受講した子どもたちが、その学びを理解して自分達の気持ちを表現する映像作品を作ることができた。CAPから映像制作プログラムへの展開という、協会としてCAPプログラムのその先のプログラムを開発することができた。</p>			<p>●「安心・自信・自由」を合言葉にした市民のネットワークの必要性がより明確になっている。とりわけ、児童養護施設「翼」がある当該地域において、「翼」に心を寄せる人々、子どもの居場所づくりやボランティアに関心のある人々が、顔の見える関係でつながりを作っていくことが、今後の事業展開につながる。また、豊中市内における子どもの居場所事業をつなぐ「いこつと」やNPOとも連携し、そのノウハウを学ぶことが必要である。 ●それに向けての取り組みとして、2022年度は、児童養護施設「翼」の子ども、職員さんたちをエンパワーするための「円卓会議」（仮）を開催して、ネットワークづくり、場づくりの経験を重ねていく。 ●「こども基本法」は、子どもの権利条約批准30余年をへて、ようやく国内法整備が始まった。映像制作講座は、子どもの意見表明権とかかわる重要な取り組みである。実践を通して、他の地域でも活用できるプログラム開発が課題である。 ●ボランティアの「地域を巻き込むチカラ」を引き出すためのフォローが必要である。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>計16回、延べ428人にCAPプログラムの実施</p>	<p>を達成しました。</p>
			<p>■受益者の具体的な変化（自由記入） 保護者ワークに参加した保護者から「子どもの話をきちんと聞いてあげたい」「家で話せない話をこのようにしてもらえるのはありがたい」といった意見が多数寄せられた。</p>				